様式(細則 5-2)

令和 7 年 2 月 26 日

浜田市議会議長　様

議員名　　沖　田　真　治

調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため視察を行ったので報告します。

記

1．視察先
- 愛媛県愛南町　愛南町役場
- 愛媛県宇和島市　伊達博物館

2．視察事項
- 水産環境未来都市構想について
- 海業の推進について
- 建て替える伊達博物館の見学

3．視察の目的（市政との関連など）
水産業の振興と第一次産業を核としたまちづくりの推進。
建設予定となっている新博物館の予定地と既存施設（第一次産業）の視察。

4．期間（移動日を含む）
令和 7 年 2 月 12 日(水) ～　令和 7 年 2 月 13 日(木)

5．経費　　25,364 円
高速料金　浜田インター～大洲松尾（山陽道経由）　11,390 円
大洲松尾～浜田インター　（中国道経由）　11,290 円
燃料費　14,941 円　・宿泊費　41,000 円　・駐車場料金　700 円
伊達博物館入館料　3,500 円　・レンタカー利用料　44,000 円
合計 126,821 円を 5 名で案分　　1 名あたり 25,364 円

6．視察のポイント・議員活動や市政への反映など
① 全国的に取り組みが進んでいる「海業」の取組を学ぶこと。
② 水産業のみならず町全域の産業を核としたまちづくり、協議会の運営方法等の聞き取り調査を行い「海業」の導入を働きかける。
③ 現在、計画にある「浜田郷土資料館」の建設の参考とする。

7．視察内容
（詳細は別紙のとおり）

浜田市議会 受付 7.2.26

【視察概要】

1. 愛南町の概要
   - 愛媛県の南端に位置する南宇和郡の旧 5 町村が平成 16 年 10 月 1 日に合併し愛南町となった。
   - 人口 1973 人　面積 239 ㎡
   - 主な産業　漁業・養殖業
   - 漁業　　令和 5 年水揚げ 16547.3 トン　金額　2,735 百万円
     養殖業　令和 5 年水揚げ 17.871.3 トン　金額　20,761 百万円

2. 水産環境未来都市構想の目的
   愛南町の強みを生かし、弱みや課題を克服し経済・社会・循環の 3 側面における新しい価値創出を通じて、持続的な漁業の振興やまちづくりを推進するため。

3. 水産環境未来都市構想 6 つの柱
   ① 愛南海の森ブルーカーボンプロジェクト
   ② 海洋プラスチックごみ対策プロジェクト
   ③ サスティナブルフィッシュ開発プロジェクト
   ④ ゼロミッション、ゼロ・ウエイストプロジェクト
   ⑤ スマート水産業推進プロジェクト
   ⑥ 海洋環境人材育成プロジェクト

4. 愛南町における海業の概要
   ① モデル地区を希望した経緯と目的
   何もしないと衰退していく危機感を持っていた。生かし切れていない町内の豊かな「食」と「自然」を町全体が一体となって生かしたいと考えた。
   高規格幹線道路の開通を見越した基盤づくりが必要であり「愛南町ＳＤＧｓ水産環境未来都市構想」の策定を契機とした持続可能なまちづくりを目指し
   令和 5 年 1 月 20 日海業振興モデル地区申請書提出。
   令和 5 年 3 月 8 日水産庁プレスリリース。モデル地区に選定された。

   ② 愛媛大学南予水産研究センター開設
   平成 20 年 4 月に愛南町役場西海支所内に旧西海庁舎を有効活用し
   船越ステーションを開設。
   平成 25 年 4 月に愛南町地域産業研究・普及センター内に旧西浦小学校を有効活用し西浦ステーションを開設。

   ○　研究内容～レジデント型教育の実践～
   ① 漁業環境の研究
   ② 養殖魚の生態に関する基礎研究
   ③ 水産物の普及・販売・流通に関する研究
   ④ 水産人材の育成

③ 海業推進会議

愛南町の水産業をはじめとした農業、観光業、商工業、活動団体等、幅広く町に関わる企業、団体等で構成される。基本理念は多主体連携による自律的な取組の創発。事務局は愛南町役場。

会議の進行は「海業推進室」の室長、愛媛大学の関係者が担っており、室長は水産庁から出向している職員。

立ち上げ間もないことから課題も多く、町の取組へ主体性を持ってかかわることが当面の課題。

5. 質疑応答

Q　カーボンクレジットの申請手続きと販売について

A　愛南町のブルーカーボン事業は磯焼け対策のｶﾞﾝｶﾞｾﾞウニの駆除と真珠養殖の筏の繁殖した海藻で申請しており申請は町役場の担当課と養殖業者、愛媛大学も協力してくれている。直近の販売量は約 34ｔ。1 トンあたり税込み 5.5 万円で販売しており販売益は真珠養殖業者の収益としている。

Q　海洋プラスチック対策について

A　愛南町は真珠養殖をはじめ養殖業が盛んであり、筏などに使用する発泡スチロールのブイの処理が課題となっていた。海業の助成事業を活用し樹脂燃焼ボイラーと樹脂圧縮成型機を導入した。本来、発電用燃料として売却を考えたが燃焼温度が低いため売却が出来なかったため、ボイラーの燃料としている。

アコヤガイ種苗施設や町内の温浴施設などの熱源として有効活用している。

Q　移住・定住者の状況と推進策について

A　移住・定住者は年間約８０名前後で推移している。海業の取組も一定の好影響もあるかと思うが限定的。次年度は国の補助制度を活用した中間支援組織の設立一般社団法人組織で設立を考えており、主にまちづくりとツーリズムを担ってもらうことを想定している。

所管

海業の推進を産業のみではなく、まちづくりの核として取り組む点において最も評価できる点であると感じた。主幹産業である漁業振興、農業振興をまちづくりの視点から考え幅広い関りを持って、町全体をどのように活性化するかと言う視点から、海業推進会議を運営する愛南町役場職員の取組姿勢も、当事者性を持って取り組んでいることに好感を持てた。

町の活力は民間の力であり、それぞれ小さな力を持つ事業所、漁業、農業従事者、活動組織等を繋ぎ合わせて、大きな推進力に変えていくための中間支援組織の立ち上げる点も官民連携で行う点において高く評価できる。

今後は課題である宿泊施設、道路網などの交通インフラも整備されとも伺っており、受け入れる組織体制の充実を図るための中間支援組織を立ち上げ、今後の展開も注視しながら本市の水産振興、農業振興、まちづくりの参考にしたい。

【視察概要】

1. 宇和島市伊達博物館の概要

　元和元年(1615)宇和郡板島の地(現在の宇和島)に初代秀宗が入国して以来、宇和島は伊達十万石の城下町として発展してきた。昭和 47 年に市制 50 周年を迎えた宇和島市が後世に残す文化施設として、博物館を建設。宇和島藩や伊達家の資料、約 3,000 点を所蔵している。

2. 宇和島市伊達博物館の課題

- 築年数が 50 年以上経過し老朽化が進み耐震化基準を満たしていない。
- 約 3,000 点の資料の内、大半は伊達家が所有しており、財団から借り受けた物で企画展示などを行っている。
- 年間入場者数　8,063 人　入館料収入　約 234 万円
- 年間管理費　約 8,750 万円

3. 博物館建て替えを巡る動き

- 平成 31 年 3 月第 1 回目の伊達博物館立替委員会開催。
- 新博物館建設予定地である「天赦公園」へ 2026 年度の開館を目指して計画を進める。
- 天赦公園への移設に反対する市民グループ「天赦公園を守る会」が 6,835 名分の署名を集め令和 4 年 5 月、住民投票条例の制定を宇和島市に本請求。
  6 月定例市議会の産建教育委員会で、住民投票条例案に最低投票率を盛り込んだ修正案を賛成多数で可決した。
- 宇和島市議会は令和 4 年 6 月 17 日、定例本会議を開き、市立伊達博物館を隣接する公園へ移転改築する計画への賛否を問う住民投票を賛成少数で否決。
  宇和島市議会は２回とも請願を否決している。
- 市民グループの反対理由
- 年間管理費　旧博物館　約 8,750 万円　新博物館　約 1 億 7,000 万円
  人口が減少し税収も減り続ける中の増額であること。
- 天赦公園は沼地であったため、地盤が弱い。津波被害を受ける高さであること
- 年間来場者数が約 8,700 人前後しかない博物館に対し高額な建設費である。

4. 新たに建て替えが予定されている博物館の概要

昭和 49 年に開館した伊達博物館の経年劣化は激しく、近い将来に起こるとされている南海トラフ巨大地震に対する耐震性もないため、宇和島が誇る歴史文化を安心して後世につなぎ、その魅力を国内外に発信するために新しい博物館を整備。なお、新博物館は天赦公園内に移転し、現博物館敷地跡は建物解体後に児童向けの公園として整備する予定。

5. 建物概要

- 鉄筋コンクリート造、地上 2 階建て
- 博物館延床面積　1 階　2452.01 ㎡　2 階　1911.47 平方メートル

建物合計 4539.26 平方メートル

- 博物館棟主要室面積　1 階　常設展示室　約 400 平方メートル
  研修室　約 200 平方メートル
  2 階　企画展示室　約 390 平方メートル
  収蔵庫　約 450 平方メートル
  付属棟　約 150 平方メートル
- 駐車場　合計 56 台分　駐輪所　40 台分
- 事業費　総事業費　約 59.3 億円
- 財源　国庫支出金　約 21.8 億円　（都市構造再編集中支援事業）
- 市債　約 33.1 億円　合併特例事業債（充当率 95%交付税算入率 70%）
- 一般財源　約 4.4 億円　実質負担額　約 14.4 億円

6. 建設に至るまでの経緯
   - 平成 31 年 3 月　伊達博物館立替委員会開催　平成 31 年 3 月～令和 5 年 8 月
     計 18 回の開催
   - 令和 1 年 7 月　基本構想策定　パブリックコメント、市民説明会実施（7 回）
   - 令和 3 年 2 月　基本計画策定　パブリックコメント、市民説明会実施（7 回）
   - 令和 3 年 11 月～令和 4 年 8 月　基本設計　パブリックコメント、市民説明会実施（7 回）
   - 令和 4 年 8 月～令和 5 年 8 月　実施設計

7. 今後の予定
   - 令和 7 年～令和 10 年　本体工事、展示制作業務、会館準備
   - 令和 10 年　新博物館開館
   - 令和 10 年度以降　現博物館解体、児童公園整備

所管

今回訪れた宇和島市「伊達博物館」は反対する住民からの請願を退け建設計画に至った博物館ということで、見学のみで訪れた。施設の老朽化は本市の郷土資料館と比べ進んでないように見えたが、雨漏りがひどく地下倉庫の浸水、所蔵倉がないことから伊達家が運営する財団の倉庫を借りていることが建て替えに至る主な理由である。本市においても過去に計画が中止となった郷土資料館の建て替え整備の際も、将来的な負担や多額な建設費が反対理由となっているが、宇和島市の場合は基本構想から時間をかけ住民への説明を行っている。これは重要な視点で、建設費や将来的な負担を削るだけ、起債が使えるなどの理由を以て説明するより理解が得られるということが 59 億円の建設費、2 度の請願否決につながったとも言える。令和 7 年度予算において三桜酒造跡地利用の調査費が計上されているが、宇和島市がパブリックコメントをその都度行う点などは大いに見習うべき点である。今後、見通しがつかない郷土資料館の整備の際は宇和島市の計画の進め方を参考にすべきである。

孝
忠

新しい伊達博物館の実施設計が完了しました。